

改葬の儀は乃父の遺業と受け取事には限りなき注意記念と與へ以て護國の大義を盡る可うラムとの胸次もあり又皇太子殿下ヶ去る四月一日セスマルクの誕生節に會して席上の演説よ

沈沒汽船秋津洲丸賣拂廣告  
我等所之青森縣下北部小田澤村海邊  
據舊三菱汽船失事  
日陽

右の如くフロツケー氏の内閣も遅かトナして更迭せる  
は政權得喪の争に於て致し方あた次第なれども現時佛  
國の人心は政黨内閣の變化繁忙に倦んで漸く古の帝政  
を想ひ出し政府更迭の頻繁なる民權政治と快しとせ  
ざる今日なればフロツケー氏内閣の敗北は又々國民  
をして共和政治に懷疑の念を起さしめ其民心の激する  
所遂に發して監督政治を促すなきを期す可らず而して  
斯る政治の變更起る所とありとすれば其權を握る者は  
必ず國民多數の望を繋ぎる軍人なるや明うなればア  
ーランツェー將軍が此機に乗じて希望を逐ぐるの企も  
亦行はれ難きに非ざる可し若し萬一斯る事變もありと  
すれば恰もナポレオン三世をして今日に再生せしめさ  
るに殆しく佛國の政治或は帝政に變ずるの恐なきにも  
非ず此邊より觀ればフロツケー氏内閣の敗北は佛國共  
和政の爲めに不利なるが如くなれども又他の一方より  
考ふるに現内閣をして充分に其政略を行はしめあば内  
に在りては過激の改革と行ひ外に對しては果斷の政略  
と布くと必然にして之れが爲め歐洲の平和を威迫せ  
るもの憂亦少なからざるべし將た隣邦日耳曼に在りては  
今上皇帝病に臥すと雖もビスマルク、モルトケハ諸臣  
之を補綴し武斷政略に變更なれ可たば人の知る所に  
して皇帝陛下及び陸軍一般に下したる詔書にも  
既は乃父の遺業と享け軍事に比限りなきの性意記憶  
を異へ以て諸國の大義を盡る可ウラシ  
との聲多もあり又皇太子殿下（アントン）去る四月一日ビスマルク  
ノ誕生節に會して席上の演説よ

時事新報定價	時事新報廣告料前金	時事新報廣告料へ左ノ如レ	時事新報前金大圖	○時事新報社ヨリ直送ニ郵便ニテ遙送スルモノニ限リ右實價ノ外ニ一箇 月二十六錢ノ遙送料ヲ申受ク	一役ニ総〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一箇五十九錢〇六箇月前金三箇 月一百一十二錢
實號活字ニア 一門四四字帖	一門ニ付	一行ニ付	一行三付	一行三付	一役ニ総〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一箇五十九錢〇六箇月前金三箇 月一百一十二錢
一門五十一行 一門或昇行	十 九 八	錢 錢 錢	七 六 五	錢 錢 錢	二厘 二厘 二厘
五十一行以上	八	錢	六錢五厘	大錢八厘	十六日以上
			五錢八厘五毛	五錢九厘五毛	十五日以上
			五錢五厘	五錢五厘	十四日以上

今日日耳曼は恰も三軍の師隊に臨んで元帥ば戰ひに死し後嗣は重傷を負ひたるの姿なり斯る危急の際に在りては萬卒の自皆軍旗と此軍旗を荷ふ者の一身に聚まらざるはあし今や我日耳曼の爲め此軍旗と荷ふ者は我大宰相あり大宰相は其好む所に從て號令せよ吾人は唯々其後へに従ふべし大宰相の壽命萬歳ならんとを歎する云々

要するに日耳曼の政略は老帝崩御の後と雖も外に對して其威權を屈せざるの主義なること明白にして即ち自ら稱して今や三軍の將其首を失ひ萬卒危急を感じる秋ありと云ふ其口氣尋常容易の者と思ふ可からず而して一方の佛國に在りてはゴブレー氏外交の衝に當りフレシテー氏陸軍の權と握り更ニ一世カンペックとも云ふ可き復讐主義のフロワッケー氏が之を總理して日耳曼又向ふ者とすれば歐洲の平和は緯令へ之が爲め直接に破れざる人心不安に思を爲して物情渾然たる可きは究に我輩の信する所なぞ要するにフロワッケー氏の内閣速に更迭をすれば轉た内國の民心に共和政治を厭ふの念を起さし之れに反して永く政權を弄せしむれば外に對して豐隙を開くの恐れなきに非ざれば現内閣の運命は永く保つも保たざるも共に佛國の共和政より幸する者と云ふ可からず

次に佛國の政治社會に於て最大の疑問とはアーランジエー將軍の肱股と聞えたるラケール氏は提出しする憲法改正の爭にして前内閣の失敗も全く之と拒えたるの過ちある故より現内閣として若しも其覆轍を免かれんど欲せばアーランジエー黨の請を入れざる可からずと雖もアーランジエー黨の憲法改正に就て唱ふる所は第一に大統領の選舉を一般投票の法にするの論にして此議をして議院の多數を制せしむるときは佛國の政體は早晚變革の要なきを得ず蓋し今の憲法に於ては大統領の選舉は始めに一般投票と以て國會議員を擇び國會議員が更に大統領を選ぶの二重選舉なるが故に斯くては大統領の重職に全國多數の人望を繋ぐ可き人物を得ずして唯中間の國會議員等が一派に卑屈の徒を指名し之を以て己れの機關として社會大多數の人の利益を放棄するに今日までの實際にも明らある次第にして即ち憲法其宜しきを得ざるの甚だ者ありとの論なれども表向の口實は姑く擱き内質の事情を解剖すれば今の復選舉の法に於てアーランジエー黨の不利とする所は國會議員たる人々孰れも多少の財産家として社會の秩序を重んずる國の治安を祈ると切あると與に今の共和政を維持して以て顛覆の憂あからしめんとの考へなるが故に將軍黨の如き非望と抱く聲は其志を達するの尙も王政復古を望む者と云ひなれども大統領の選舉に於て二重投票の法あるが爲めに財產家に多數を制せらるを得ず此他ボナバート黨と云ひオルレアン黨と云ひれども自黨より候補者を出す能はずるは皆不平の原因よりもラグール氏の勵謙遠々議院に勝利を占めたるも亦之に依る者なりとす

宮

報

飛驒國大野郡高山町二三等電信局チ置キ高山電信局ト  
稱シ來六月十六日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム  
明治廿一年五月卅一日 送信大臣子爵撰本武揚

路見分の爲めとて去る廿七日同縣書記官長谷川敬助氏は土木課長阿武久吉氏を隨へ巡回の途上りしが右一行には常置委員も同伴たりといふ是ば來る廿二年

も田下共準備  
に於ては出品  
大坂府廳に第

御納涼

溫馨  
割烹

二

伊  
新

1

卷六

貞

1

四

116

11

卷之三

丁巳  
歲暮

深始授

改文切口